

『はやくぜんぶおわってしまえ』

作 升味加耀

▼登場人物

ソノ(18) ミスコン実行委員長。

ヤギ まーちゃん(18) ミスコン実行委員。美術部。

アキヤマ(18) 帰国子女。今年編入してきた。

ナカイ ユミ(18) ミスコン実行委員。演劇部を高2で引退している。

ノザワ(17) ソノとは小学校から一緒。演劇部を高2で引退している。

サキちゃん先生(32) ミスコン実行委員会の顧問。クラス担任。

▼台本記号

☆…☆のついでるセリフを同時に言う。

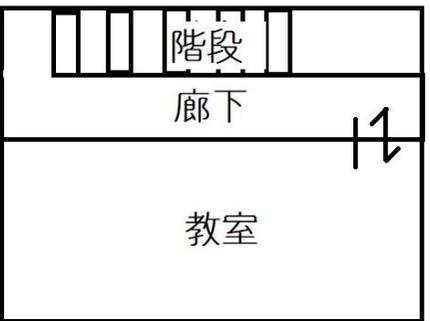
★…★、と並行する。

(…)(以降のセリフに、次のセリフをかける。

▼時

2012年、7月。

▼舞台イメージ



※教室を出て廊下を渡り二階施設に行くときのみ、教室下の後方で数秒待機する。(見えない廊下の奥行きを出す為。)

夏休み前日、終業式の後。

舞台は教室。天井からは無数のシールドケーブルが垂れ下がっている。舞台上には椅子が五脚、整然と並ぶ。ベースとベースアンプが上手壁に立てかけられている。

上手端に、舞台奥の廊下に行くドアがある。廊下は、上手教室ドアから下手階段登り口に向かって横切るように伸びている。さらに最奥には、下手端から上手端に向かって、二階に上る階段がある。舞台中央奥の廊下階段下に、ベンチが設置されている。

開演五分前の前説が終わった頃から、生徒たちが奥の階段を下りて、廊下を横切り、入ってくる。

まーちゃん、ユミ、ソノ、校則通りに制服を着ている。

ノザワ、Tシャツの上にブラウスを前を開けて羽織り、スカートの下にジャージのズボンを履いている。

アキヤマ、既定の白ではなく、紺のソックスを履いている。

けだるい暑さ、窓は開いており、校庭でセミが鳴いている。

各部活の掛け声や、吹奏楽部の演奏が、開場時より流れている。

開演30秒前から小さく、アンプからノイズが入り始め、徐々に大きくなる。

♪ROMANCE／非常階段

ケータイを食い入るように見ていたソノ、いらだった様子で教室を出ていく。

ドアが乱暴にしまった瞬間ノイズが最大になりCO。

アキ え、こわ笑

ノザワ なに、なんて怒ってんの？

まー あー。

ノザワ なに？

ユミ これまだ（秘密のポーズ）なんだけど。

まー え？

ユミ 中止になった。

ノザワ なにが。

ユミ ミスコン。

ノザワ え。

まー うん。

アキ いつ？

まー 今日の朝、終業式前に委員みんな集められて、言われた。
ノザワ なんて。
ユミ 副校長が、
ノザワ カナイ？
ユミ うん、外見に順位つけるのよくないって。
ノザワ えー今更？
アキ 投票終わったじゃん。
ユミ ねー。
アキ 謎、ええ、それだけ？
ユミ あーあと、性自認が、
アキ なにそれ。
ユミ 性自認。
アキ セージニン。
ユミ 性別の性に、ジ、自分のジで、認める。
アキ 性自認。
ユミ うんそう。
アキ え、なんなんそれ？
ユミ わからん。
ノザワ やば。
アキ わからんのかい。
ノザワ 忘れてたー。
ユミ え？
ノザワ 行かなきゃいけなくて、職員室、中等部の。
ユミ え、なんで？
ノザワ この前の期末やばかったから。
アキ ノザワ単位大丈夫そう？
ノザワ んー交渉交渉。
アキ がんばって。
ノザワ、教室から出ていく。
アキ え、それで？
ユミ セージニンが揺らぐって。
アキ どういうこと？
ユミ わからん。
アキ わかれよ、ミスコン委員でしょ？

ユミ 怒られたから。
アキ え？
ユミ 怒られたの、ね。
アキ あ、うん。
ユミ うん。
アキ え？
ユミ 怒られたから、もうそれの方が全然、ショックだったから。
アキ え、そんな？
まー あ、
アキ そんなげきおこ？
まー や、もともとカナ先の声がでかいから。
アキ あーね。
まー びっくりしちゃって、ユミが。
アキ うんうん。
ユミ 怖かった。評定落ちるかも。
アキ え。推薦なの、ユミ。
ユミ うん。
アキ それはなあ、上級国民様のお話だなあ。
ユミ えー笑
アキ 高等遊民になりてえ。
ユミ え？
アキ 遊んで暮らしたい。
まー 専業主婦？
アキ あー旦那に稼いでもらってね。
ユミ でも家事とか子育てめんどくない？
アキ や、いらないや、子供。
ユミ あ、そう。
アキ うん。きもいし。
まー え？
ユミ かわいくない？
アキ あーかわいいけど、お腹いるとき、エイリアンみたいじゃない？
ユミ どういうこと？
アキ うち意外とZETX見るじゃん。
ユミ しらねー。

アキ 3歳から教育テレビ派じゃん。
ユミ みんなそうでしょ、

「おかあさんといっしょ」のエンディング「スプリッピスプリッパ」を歌う。

まー (参戦する。)

二人 (合唱する。)

ユミ、まーちゃん、人間アーチを作り、アキヤマを無理やり通す。

アキ にわかだな。

ユミ は？

アキ 最新シリーズわかる？

ユミ え、

アキ 最新。

ユミ しらん。

アキ は！

ユミ なんなんこいつ？

古いの知ってるやつが古参だろ。うちら全員古参だろ。

アキ ちがうね、どれだけ長く愛情を注いできたかだから。子育てと一緒にだから。

ユミ 子供いらねえって言ったじゃん。

アキ 心の問題だからそれは、そういう姿勢でわたしは教育テレビに挑んでますってことだから、

ユミ うるせえなあ。

まー ……何の話だっけ？

アキ え？

ユミ なんだっけ。

アキ エイリアン。

ユミ え？

まー エイリアンの話。

ユミ あー。

アキ テレビで、赤ちゃんがさ。

ユミ うん。

アキ なんかこう、触手みたいなのを血管に伸ばして栄養奪うわけ、それめっちゃエイリアンじゃん、寄生してんじゃない？

ユミ え、そういうとりかたなの？へその緒じゃないの。
アキ 違うんですよ、なんか、伸ばすんですよ血管に、触手を。
ユミ やば。
まー あーでもへその緒もよく考えたらなんかな。
アキ え。
まー 触手っばいもんな。
ユミ 確かにきもいか。
アキ それであんなデカくなるんだよ10か月で。え、どんだけ栄養吸われんの？赤子マジ強欲なエイリアン。
ユミ うちらは貪欲エイリアンだったんだな。
まー 母に感謝。
ユミ ありがとうございます。
まー なんかいわないよね。
アキ え。
まー 父親、出てこないよね、こういう時。
アキ あー。
ユミ だってなんか、どういってもなんか、生々しいお札になっちゃう。
アキ あと出ただけでしょ？っていう。
まー え？
ユミ やばこいつ。
アキ え、でもだからじゃん、その出産周りにはお礼言わないじゃん。
まー あー感謝はあるのね、
アキ そりゃね。
ユミ ねーきもいこの会話、やめよう。
アキ ピュアごっこ？
ユミ ちがくて、清純派だからうち。
アキ 違いまーす。
ユミ そうでーす。
アキ 違いまーす、こいつ文化祭に男呼びまーす。
まー えー！
ユミ 友達！友達だから！
アキ 男呼びまーす。
ユミ 変な感じで言うなよ。
まー だれ？あ、ミクシーで絡んでた子。

ユミ 一応？
まー ダンスみにくんの？KPOP。
ユミ うん。
まー ファッションショーも？
ユミ ー多分。
アキ 順調なん？いろいろ。
まー ー。
ユミ ノザワがこの前泣いちゃって。
アキ え？
ユミ 衣装合わせの時。
まー なんてかわかんないけど。
アキ ダサすぎた？
ユミ え？
アキ 衣装が。
まー 違う違う。
ユミ ダサくないと言わんけど。
アキ へー。
まー なんかクラス演劇の役決めの時もさ。
アキ え？
まー あんま元気なかったよね。
アキ あー。
ユミ ロミオ、似合うのにね。まあユッキーの方が人気だったけど。
アキ まあユッキーあんまああいうのやりたがるタイプじゃないじゃん。
まー 若干、押し付けられる感、もあつたけどね。
ユミ まあでもあそこ付き合ってるし、その辺はうまくやってんじゃないの？
アキ え、そうなの？
ユミ うんしゃべってたよ、ユッキー。
まー え、そうなんだ。
ユミ でもノザワは言っていないよね。
ユミ うん。

サキ、前の会話の間に、階段を下り、廊下を渡り、教室にやってくる。

ユミ あ、

サキ あ、ごめんね。ヤギさん、ちょっといいかな。
まー あ、はい。
サキ ごめんね、ちょっと職員室。
まー はい……。
サキ みんなはまだ、
アキ あ、
サキ 帰らないの？
アキ あ、待ってて。
サキ あーそうなんだね。
アキ ソノ。
サキ あー。
アキ 今日はおもう早めに施錠したいから、よろしくね。
アキ あ、はい。
サキ 不審者の件、みんなも気を付けてね。
アキ あー。
ユミ はい。
サキ あ、じゃあ。
まー ごめん。
ユミ ううん。

まーちゃん、サキと出ていき、廊下を渡り、階段を上る。

まー え、なんですかね。
★▷サキ あ、顧問の宮崎先生が。
まー はい……。
サキ お客様がいらっしやってるって。
まー あ、ああ。
サキ うん。
まー ……え、どなたですか。
サキ 有名な先生って言ってたけど。
ヤギさんもあったことあるって言ってたよ。
まー ……はい。

まーちゃん、サキ、去る。

★ア、アキ 気を付けてって言われてもな。

ユミ な、校内に出られちゃってるからもう、

アキ どうしようもないよね。

ユミ うん、そっちが気を付けてくれよ。

アキ たしかに。

てかなんだろうね、まーちゃん。

ユミ あれじゃね、東京ガールズコレクション。

アキ あーえ、でも写真にいなかったじゃんまーちゃん。

ユミ わかんないけど。他の子もああいう感じで連れてかれてた。

撮られたとき。

アキ まだやってんのか。

ユミ (制服) このスケスケも悪い。

アキ わかる。

ユミ コメント、キモかったね。

アキ すごい、よくあんなグロキモいこと書けるよね。

ユミ 捕まえてくれよポリス。

アキ ポリスマジ無能。

ユミ でもごめんわかんないけどね。

アキ え。

ユミ まーちゃんが撮られたかどうか。

アキ あー。

ユミ わかんないけどね。

ノザワ、教室に帰ってくる。

ノザワ あれ、まーちゃんは？

ユミ 連れてかれちゃって、職員室。ソノもないから。

ノザワ あー。

ユミ え、先いく？

ノザワ え。

ユミ マック。

ノザワ あー。

ユミ どっちでもいいけど。

ノザワ そーね。
アキ でもいくとさ、喰っちゃうじゃん。
ノザワ わかる。
アキ ギリまでだよ。
ノザワ 痩せてーしな。
アキ うん。
ユミ え、でも、
ノザワ ？
ユミ 結構やせたじゃん。
ノザワ あー。
アキ 異常だよね。
ユミ 何キロ？
ノザワ やだよ。
ユミ えー。
アキ ダイエットしたの？
ノザワ 受験のストレス。
アキ ないでしょ。
ノザワ え？
アキ 勉強してないじゃん。
ノザワ それな。
 ねえ夏休み追加レポート出された。
アキ え、単位は？
ノザワ それやれば救済あり。
ユミ まじでギリギリを生きてるよね。
ノザワ (Real Face/KAT-TUNのサビを力いっぱい歌いながら、ベースを練習し始める。
 が、アンプにはつなげていないため、音はほとんど聞こえない。以降の練習
 の際も同様である。)
二人 エヘ〜。
ノザワ まあ普通に食欲なくなれば痩せるよ。
アキ え、こわ。
ノザワ 別にいいじゃん、ふたりともそんな太ってないし。
二人 いやいや。
アキ うちこいつと並ぶんだよ？
 ていうか太れよ。

ユミ えー。

アキ 太れよー。

ノザワ 無理いうじゃん。

アキ 夏休み中毎日3000キロカロリーとれ。

ユミ 無理だよー。

アキ まあでもだいたい短いのはくから。(ちょっと踊りながら)

ノザワ あ、ダンスで？

アキ うんだから、まあ、うん、とりあえずうんことして出してくる、肉を。

ユミ ねえ汚い。

アキ 一キロは軽くするわ、重さ。

ユミ 多い。

アキ お花摘んできます。

ユミ 遅い、もううんこって言っちゃってるから。

絶対手洗えよ。

ノザワ え？

ユミ あいつ時々洗わないの。

アキヤマ、教室から出る。

ユミ ……なんか、

ノザワ ん？

ユミ 好きで痩せてんじゃないんだけどね。

ノザワ あー……まあ、外見を結構気にするじゃん、アキヤマ。

ユミ うんわかるけど。

ノザワ うん。

ユミ ……今年いくかな、都大会？

ノザワ んー。

ユミ なんかさ、この前見せてもらったとき思ったんだけどさ。

ノザワ うん。

ユミ 女が男役やるのって、正直やっぱ浮くよね。

ノザワ えーでも去年の審査員は褒めてたじゃん。

ユミ でも都大会はなんかぼろくそ言われたじゃん、知らないおじさんに。

ノザワ おじさん笑

ユミ まじーミリも知らない劇団のおじさんとおばさんが並んでたじゃん、審査員で。

ノザワ 辛辣。

ユミ 松尾スズキとか三谷幸喜とか蜷川幸雄とか来いよ。

ノザワ いやだよ。

ユミ え？

ノザワ こわいよ。

ユミ え？笑

ノザワ 並んでたらこわい、その三人。

ユミ じゃあ二ナガワさん、ケラリーノサンドロヴィッチヨ。

ノザワ あー……あー？

ユミ ケラリーノサンドロヴィッチがね？

ノザワ うん。

ユミ ケラリーノサンドロヴィッチが入ったら？

ノザワ うん。

ユミ 緩和された？ケラリーノサンドロヴィッチによって？

ノザワ されないでしょ、

ユミ え、でもケラリー（ノサンドロヴィッチ）。

ノザワ いいいいいもう、響きだけが好きなの分かったから。

ユミ そんなことないよ。

ノザワ ナイロン見たことないでしょ。

ユミ ナイロン？

短い間。

ノザワ いいわ、いいいい、つかなんて全員おじさんなの？

ユミ えー……女が出てこん。

ノザワ 嘘じゃん。

ユミ えー。

ノザワ なんもきいてないじゃんお前。台本決めの時とか。

ユミ すんません、でもさ超腹立たなかった？内容とかじゃなくて、舞台美術の椅子と床のパンチの色そろえた方がいいとかさ、糞どうでもよくない？ど

うでもよくない？どうでもいいよね？もっと役に立つこと言えよ、見て？？？寝てたんじゃない？？？？

ノザワ 寝てはないと思うよ、一応ちゃんと見てやってくれたと思うよ笑

ユミ そっか。え、でもそしたらマジで言うことなかったってことにならん？

ノザワ ……寝てたことにしよっか笑

ユミ うん笑

ノザワ 大学で続ける？演劇。

ユミ んーやんないかな。親もあんま、嫌そうだし。

ダンスかな、やるなら。

ノザワ いいじゃん。

ユミ 見に来てよ、文化祭。

ノザワ 見る見る。

ユミ うち推しやるから。

ノザワ いいじゃん、知らんけど。

ソノ、教室に入ってくる。

ソノ ねえ。

ノザワ ん？

ソノ ……いややっぱ何でもない。

ノザワ なんだよ。

ソノ ううん。

ノザワ あミスコンの話？

ソノ え？

ノザワ きいたけど、中止になるんでしょ。

ソノ あ、うん。え？

ユミ 言っちゃったー。

ソノ ねえお前さー。

ユミ だってどうせわかるんだからさ。

ソノ ほんとお前、そういうとこだよ。

ユミ ごめんごめん、でも順位の話とかは全然してない。

ソノ ほんとに？

ユミ うん、あ、でもノザワ知りたかったら教えてやってもいいけど。
ノザワ え？
ユミ ミスターコンの方。
ノザワ いいです別に。
☆ユミ えー。
☆ソノ やめなつて。
ノザワ それ刈上げ票でしょ絶対。
ユミ なに？笑
ノザワ あるじゃん、髪の毛短い人に自動的に入る票、刈上げ票。
ユミ 票が入ってるとは思うんだ。
ノザワ だって言われたもん何人かに。応援してるよ！みたいな。
ユミ おく。
ノザワ 勝手に周りで盛り上がってるから。どうでもいいよ。
ユミ えーうそ、まーちゃんもうちも結構票あったけど、普通に沸いたよ。
ノザワ ねーそういうのあんま言わない方がいいよ。
ユミ まあ結局一位はメグちゃんとユッキーだったけどね。
ソノ おーい！
ユミ あ……へへへ。(ケータイに目を戻す。)
ソノ ねえこいつほんとむかつく。
ノザワ なんて委員に入れたの？
ソノ ほんとだよな。
ノザワ ユミは全部言うよ、ね。
ユミ ねー。
ソノ そうなんだよな。
ユミ え。
ソノ なに？
ユミ え、やばいやばい。
ソノ だからなに？
ユミ え、ねえまた露出狂出てんだけど。
ノザワ は？まじ何回目だよ……。
ソノ 女子高好きすぎんだろあいつら。
ユミ 家までついてこられそうになったって。

ノザワ 死ねや。
ソノ 死ね。
ユミ 写真出てる、メグちゃんのアメンバー。
ノザワ え？
ユミ アメンバー限定記事。
ソノ え？
ユミ 撮ったらしい、逃げるところ。
ソノ つよ、え、女じゃん。
ユミ だから女装してたんだって。
ソノ はあ？きも。
ユミ マジ終わってる。普段何してんだろ、こういうやつ。
ソノ なんか、すげえむかつくな。
ユミ え？
ソノ だってこいつ絶対プレイしてないじゃん、うちの変態キモリアル。
ユミ は？
ソノ 普段男やってんでしょ？絶対遭遇率低いじゃん、キモい変態に。
ユミ あーそうね！
ソノ ね？なのにさ、うちらみたいな、キモキモ変態キモリアルを日々プレイしてるJKに、女のコスプレしてこういうことやって気持ちよくなっちゃうってなんかもう、どういう神経？
ユミ わかんね、な。
ノザワ ーなんかすげえバカにされてる気はするよね。
ソノ ね、普通の痴漢より。いや痴漢も無理だけど。死んでほしいけど。
ユミ 女装はいいけどやってるのがな。
ソノ え、そう？
ユミ え？
ソノ ちょっと嫌だけど。
ユミ え、でも別に、女装してる人が全員こいつじゃないわけじゃん。
ソノ でも女のコスプレして楽しんでるのは一緒じゃんか。
ユミ ーん？でも女もズボン履くじゃん。
ソノ え？
ユミ だから男もスカート履いてよくね？っていう話じゃなくて？

ソノ ーんーそういうことじゃなくて？いや、なんか、うーん。

ユミ えーでも原宿とかにも全然いるし、あーでもそれを盗撮してる人もいるんだよね。

ソノ え？

ユミ だからそれもキモいし、もう誰だって人の写真を勝手にとっちゃダメ！ダメです。

ソノ や、それはそうなんだけど。

ユミ まじ歩いてるだけで写真撮られて、グロキモいコメントと一緒にアップされるしなんかほんとすごい、クールジャパン。

ノザワ くそ、ほんとくそ。

ユミ だってうちらそんなどこでもランウェイ、撮ってどうぞ、みたいな気持ちでウォーキングしてないじゃん毎日。(ウォーキングの真似。)

ソノ まって、ねえまって。

ユミ え？笑

ノザワ 今の何？

ユミ ウォーキングですけど？笑

ソノ 違うじゃん。

ユミ まーとにかく変態は全員死刑で。お願いします。

ノザワ それだな。

ユミ ほんとにな。

ノザワ どうせまたやるじゃんね。

ユミ 極刑しかねえよ。

ノザワ まー悲しいけど、しょうがないよな。

全員 うん。

ノザワ (お仏壇のはせがわのジングルを歌う。)

ユミ なーむー。

三人 (各自別バージョンのはせがわのジングルを歌う。)

三人 え。(お互いに)

ノザワ え、今え？なんつった？

アキヤマ、教室に戻ってくる。

ユミ お墓ないでしょ、お仏壇だけでしょ、お墓ないでしょ？

ソノ えむしろお墓しかないよ、お仏壇がないよ。

ノザワ え、どれが正解？

ユミ (はせがわCMジングルを歌う。)

ノザワ えー。

ソノ 違和感。

ユミ うそでしょ、めっちゃ一番スッキリしてるじゃん、一番。

アキ なんなんそれ。

アキ以外 (三人目をあわせた後に、アキに各自別バージョンのはせがわCMジン

グルを歌う。)

アキ え？

アキ以外 ふふふんふん♪、はせがわく

アキ なに？やだやだやだ。

アキ以外 (各自別バージョンのはせがわCMジングルを歌う。)

アキ わかんないわかんないわかんない。

アキ以外 (各自別バージョンのはせがわCMジングルを歌う。)

アキ ……はせがわく？

全員 ……。

アキ え、こわいこわいこわい。

ユミ 覚えときな、日本の文化だから。

ソノ 帰ってこないね。

ノザワ ね。

ユミ ねえ、手洗った？

アキ どっちだと思う？

ユミ ねえやだほんと最悪。

サキ、前の会話の間に、階段を下り、廊下を渡り、教室にやってくる。

ソノ なんですか？

サキ あ、一応、カナイ先生から、アキヤマさんに。

アキ え？

サキ 靴下。

アキ あ、あー。
サキ 終業式で気づかれたみたいで。
ソノ え、でももう帰るし。
サキ あ、うんそうなんだけど。
ソノ え、わざわざ買ってきたってことですか？
サキ あ、校則だから。
ソノ え？
サキ 一応。
ソノ えー……。
ユミ でも慣れてないんで。アキヤマ。まだ、日本の文化。
サキ うん。
ユミ 明日から夏休みだし、別にそんなしなくても。
サキ うん、でもカナイ先生が気にされてるから。
ユミ え。
サキ うん、いいかな？
アキ あ、あ、履き替えたらいいですか？
サキ あ、うん。
アキ はい、じゃあ。
サキ 動かない。
アキ ……履きます。
サキ うん。

アキヤマが靴下を履き替えるのを、一同黙って見る時間。

アキ はい。
サキ うん、ごめんね、わざわざ。
アキ あ、全然、こっちがすいません。
サキ ううん。
ノザワ あ、
サキ ？
ノザワ まーちゃんは？
サキ あ、今ねちよっとお客様がお見えになってて。

ノザワ え？

サキ うん。

ノザワ まーちゃんの？

サキ うん。

ノザワ 結構長くなりそうですか？

サキ うーんそんなことないと思うけど。

ノザワ あーわかりました。

サキ うん、じゃあ。

サキ、廊下を渡り、階段を上り、去る。

ソノ (ドアが閉まってしばし経った後) え？

ユミ え。

ソノ 何今の時間、めっちゃキモかったんだけど。

ユミ キモかった今。

ソノ カナ先まじきもいじゃん、え、めっちゃ生徒の体見てるってこと？

ユミ だっていつもあの階段のところでさ。

ソノ ね。

アキ え？

ユミ 下から二〜三段目くらいに座ってさ、上見上げてんの。

アキ うん。

ユミ え、絶対パンツと足見てるよね。

アキ そんな、やらないでしょそんなこと。

ノザワ そうだよ。

ユミ え、でもさ、じゃあなんであんなとこ座ってんの？

ノザワ そりゃ座りたいとこに座るんじゃないの？

ユミ でも体育の着替えの時間の時とかもさ、次自分の授業だと早く入ろうとしてくんじゃん。

ノザワ えー。

アキ それはユミが永遠にエイトフォー人にかけて遊んでるからじゃん？

ノザワ あれやめてよ臭いから。

ソノ でもなんか、顔がキモいんだよな。

アキ おいおい。
ユミ まあな。
ノザワ えー。
ソノ や、なんか、うん。まあ、今恨みしかないわ、カナ先に。
ノザワ え、なんて。
ソノ あいつごちゃごちゃ言ってきた。
ノザワ あそうなん？？
ソノ だから無理。
ユミ ていうか、サキちゃんもねえ。
ソノ うん。
ユミ なんか言ってくれてもよかったと思う。
アキ まあ、でも、むずい。
ノザワ 副校長だし。
ソノ 優しいね。
ノザワ 優しいとかじゃ、ねえ。
アキ うん。

まーちゃん、前の会話の間に、階段を下り、廊下を渡り、教室に戻ってくる。

ノザワ おかえり、大丈夫？
まー なんか、なんかうろろ。
ノザワ え？
ソノ どしたどした。
まー なんか、気持ち悪い、気持ち悪い。
ユミ えー泣かないで。
まー どうしよう。
ユミ えーどしたどした。
アキ よしよし。

全員、まーちゃんを慰め、椅子に座らせる。

まー なんか、この前区民ギャラリーみたいなところで、美術部で展覧会して、そこに知らないおじさんが来て。たまたま受付に私しかいなくて、先生が御手洗い行っちゃってて。

アキー うえーもう嫌な感じする。

まー なんか、絵一枚一枚に感想言っつて、それが全部上から目線みたいなの、「知らないんだろうけどこのタッチはね」みたいな。

ユミ はあ？

まー はあ？なんだけど、でも怖いじゃん？一応ニコニコして聞いてて。

全員 (口々に) キモ。

まー それでなんか最後に、「今度僕の絵のモデルやらないか」って。

全員 (悲鳴) きんも~~~~~。

まー で、そいつが、きてる。

ユミ え？

ノザワ 職員室に？

まー うん、あーもう、帰ったかもだけど。

ユミ え、ストーカーじゃん、なんでよ。

まー 有名な芸大の先生なんだって。

ソノ そいつが？

まー うん、だから顧問とつながりあって、そこで、学校の近くに住んでるらしくて、

アキ え、そんなことあんの。

ユミ あ、え、じゃあそのすごい先生にまーちゃんが気に入られたってこと？

まー でもあたしの絵をとかじゃないから。

ソノ え、でももしかしたら、モデルから、とか言うことがあるかもしれないってこと？

まー だからそれは、

ユミ え、すごいくない？

ソノ うん、すごいよね。

アキ え、でもさすがに学校に来るのはキモいじゃんか。

ソノ え、でもそんだけ熱心なことじゃんね。

ノザワ や、でもまーちゃん本人が嫌がつてるんだからさ。

ユミ え、でもさ、

まー 俺のミューズになれて光栄だろ、みたいな態度が。
ユミ え。

まー すごい、嫌なの。ほんとに嫌なの……。
ノザワ うん。

ユミ そんな、でも、大丈夫だよ。嫌って言えば来ないでしょ。

ソノ 先生もわかってくれたんじゃないの？

まー わかんない。

でももう予備校行くのやめる。

ノザワ え。

まー なんか美大行きたいと思ってたけど、なんか、分かんなくなってきた。
ノザワ うん。

まー ごめん、大したことじゃないよね、ごめんね、いきなり泣き出して。

ノザワ ううん。

アキ 大丈夫だよ。

ソノ そいつまだいるか見てこようか？

まー え？

ソノ だってなんか、鉢合わせたら嫌じゃん。

ユミ 最悪どつかで待ち伏せとかもありそうじゃん。

まー えーでも、

ユミ ちょっと行ってくる。

ソノ うん。

ソノとユミ、廊下を渡り、階段を上り、我先にと走り去る。

アキ 見ただけだよな。

ノザワ うん。

アキ あーあ。

アキヤマ、窓際による。

アキ 熱中症。

ノザワ え。

アキ なんないのかね。

ノザワ あー。

アキ　すごいと思う。

ノザワ　……。(グラウンドにいる誰かを凝視している。)

アキ　ん？

ノザワ　ちょっと、トイレ。

アキ　あ、うん。

ノザワ、教室を出ていく、

アキ　ねえねえ。

まー　ん？

アキ　ユッキーまだ部活出てんだね？

まー　え、いる？(立ち上がり、窓際へ。)

アキ　そこ。

まー　あーすげー。

アキ　ハンドボール。

まー　一生無理だわ。

アキ　あのさ。

まー　ん？

アキ　おばあちゃんが言ってたんだけどさあ。

結構有名な銀行に入ったんだけど、お花の時間があつたんだって。

まー　は？

生け花の時間が、あつたんだって、女の子にだけ。

まー　え、仕事中に？

アキ　うんなんか職員食堂みたいところで、みんな集まって生け花を習う。

謎の時間……。

アキ　うちのばあちゃんは超強くて、そんなの無理なんですけどーみたいなの、結

局自分で店始めることにしたんだけど。新宿にお店持ってる。

まー　すごい、どのへん？

アキ　あそこ、あれは、あのなんて言ったらいいんだろう、世界堂わかる？

まー　あ、うんうん。バルト9の方ね。

アキ　そう、ねえバルト9でさ、

まー　あうん、

アキ 都立新宿の屋上プール丸見えじゃん。
☆まー あー。
アキ あれさあ、変だよね。
まー エスカレーターだね。
アキ そうそう、あ、で、その先の方に、御苑側？にある。
まー へー。
アキ なんか、お花、楽だなーって思う人もいるかもしれないけど。
まー うん。
アキ 嫌だな、みたいな、それでなんか、ん、なんの話？
まー 知らんけど笑
アキ あ、まーちゃんの話を書きいて思い出し候。
まー なるほど候。
アキ 日本語下手なんかな。
まー え。
アキ たまに笑われるから。
まー そんなことないけどな。
アキ そうか。
まー ただただ面白いよ。
アキ そうか、え？
まー いい意味。
アキ あそう。さんきゅー。
まー いーえー。
アキ ……絵はやめるの？
まー え。
★B(★B、31P)アキ キモいジジイのせいで、絵描くのも嫌になったら最悪
だなんて。
まー ううん、絵は描くと思う。
アキ ほんと？
まー うん。
アキ やった、うち好きだから、まーちゃんの絵。
まー ありがとう。
アキ ほんとに、これはマジ。

まー うん……なんかさー。
アキ うん。
まー この先彼氏とか作れんのかな？うち。
アキ え、どういうこと？
まー 多分男が無理なの。セックスとかも無理。
アキ なんで？
まー 嫌なことしかなくて、思い出が。
アキ それはまあ、みんながみんな、そうじゃないとは、思う、思いたいね。
まー そうだね。
アキ 全員同じだったらやっぱ、地獄じゃん。それはしんどいから、
まー そうね。
アキ まーちゃんのこと好きで、めっちゃ大切にしてくれる子も絶対いるって。
まー そうねえ。
アキ ん？
まー や、そもそも付き合いたいとかもないんだな、ほんとは。
アキ あ、そうなん？
まー うん、今気づいたけど。
アキ え、あ、じゃあ女の子にとってこと？
まー え、いやいや、誰とも。
アキ そっかー。
まー でもほら、ananさんが言ってる。
まー “20代独身女子の55%は彼氏がいない”
まー へー。
アキ だからまあいいんじゃないだろうか。
まー そうだろうか。
アキ そうじゃないだろうか。
まー 関ジャニ誰好き？（表紙見ながら）
アキ えー。
まー それぞれに雑誌に目を通し始める。
アキ 遅いなあ。
まー んー。

ソノ、ユミ、階段から帰ってきながら。

★B、ソノ　なんか、結構普通のおじさんだったね。

ユミ　なんかもっとロリコンなのかと思った。

ソノ　見てわかる？

ユミ　わかんないけど。

ソノ　睨まれたね、カナ先に。

ユミ　うん。

ソノ　うちが悪いことしました？

ユミ　してない。

ソノ　……ねえ。

ユミ　なに？

ソノ　やっぱさあ、やだなあ。

ユミ　え。

ソノ　ミスコン。中止。(ベンチに座りながら。)

ユミ　あー。

ソノ　なんかなんでこんなめんどくさいことになっちゃうのかなあ。

ソノ　え？

ユミ　楽しいからやりたいじゃだめなんかなあ。

ソノ　こんなん女子高でしかできないじゃん？

ソノ　そうなのよ。

ユミ　共学でやったらリアルになっちゃう。

ソノ　え？

ユミ　面白くないもん。

ね。

ノザワ(声)　え、

ユミ　ね。

ノザワ、廊下に現れる。

ノザワ　あ、ごめん、何が？

ユミ　ミスコン。女子高でやるからミスターコンとかもできていいじゃん。

ノザワ あー。(ベンチに座りながら。)

ユミ 共学とか大学とかだともう、楽しいネタじゃなくてさ、ガチガチにバチバチになっちゃうでしょ？

ノザワ んん、どういうこと？。

ユミ だから、大学ミスコンと変わらなくなっちゃうじゃん。女が女を選ぶからいいんじゃない、うちらは。

ノザワ え？

ソノ しかもさ、ミスターコンに選ばれた女の子が性自認揺らぐってどうなん？

ユミ ね、だってノザワいままで男役やってきたじゃん。

ノザワ あーうん。

ユミ 揺らいだ？性自認。

ノザワ ……そういうことはないけど。

ユミ ほら。

ノザワ でもそれはうちがってことだから、他の人はわかんないよ？

ソノ 揺らがせとけばいいじゃん。

ノザワ は？

ソノ 揺らぐ人は揺らいでいいんじゃないの？

ユミ まあ本人の問題だしね。

ソノ ねえ昨日さ、思いついた案があるんよ。

ユミ なによ？

ソノ うちのクラス演劇さ、ロミジュリじゃん。

ユミ うん。

ソノ もう登場人物全員女。

ロミオとジュリエットはレズビアンカップル、そういう方向でいかな
い？？

女が女だったらいいわけでしょ？？

もしそれを先生たちが止めたら、今度こそそれはもう完全差別じゃん？
ただただ、なんか、そういう人が出たら嫌だったんですね、ってことじゃ
ん。

ん。

ユミ あー。え？

ノザワ あーうん。

ユミ それはあれ？ん？なんだ？

ノザワ や、だから。

ソノ シェイクスピアも最初は歌舞伎みたいに男だけでやっててさ、でも別にそれで問題なかったわけじゃん？

ユミ そうなの？

ノザワ 言ってたじゃん先生。

ユミ きいてなかったら。

ソノ え、大丈夫？わかるかなこの後。

ノザワ いいいい、わかんないから、それで？

ユミ わかる、わかるから、こいよ！

ノザワ なんだこいつ。

ソノ や、ね、じゃあそれは結局、見てる人が、ジュリエットは女、ロミオは男って思ってるから成立するんじゃない？それは演じてる人がどう、とかじゃなくて、ただ、そういうことになってるから、そう見るんじゃない。

ノザワ それで？

ソノ だから、それはうちのミス・ミスターコンも同じなわけ、うちらは別に本当に男の子だ！と思ってユツキーにいられたわけじゃないじゃん。そういう仕組みだったからそうだったってだけで。

ユミ あーあーなるほどね！

ノザワ ほんとかよ。

ソノ そうそう、それはもう、そうじゃん。そんなことくらいで揺らぐ心配をされるのであれば、クラス演劇はどうなんですか？がつつり投票で選ばれた人気な女が男やりますけど？？？？あれがいいなら、うちのミスコンはなんでダメなんすかね？？？って話じゃん。

ユミ ほあーなるほどね。

ノザワ んー——それはさ、

教室のアキヤマ、廊下を見て、三人に気づく。(★B、Bが合流する。)

アキ え、ねえなんでそこでしゃべってんの？

ソノ え？

アキ 早くマック行こうよ。

ソノ や、ちょっと待って、この話今やっぱしてくる。

アキ え？なに？？なんのはなし？
ソノ ちよつと職員室、サキちゃんに。
ユミ うちもいくら。
ソノ ノザワも！
ノザワ え、なんて？
ソノ うちのクラスのロミオでしょうよ。
ノザワ や……結果出たら教えて？
ソノ なんで？こいよ！
ノザワ うるせえな、いいよいってこいよ。
ソノ なんだよら。
ノザワ ファイト！
ソノ ねえむかつく。
ユミ いこいこ。

ソノ、ユミ、階段上に消える。

アキ ノザワ！。
ノザワ んー。(教室に戻ってくる。)
アキ ソノは何しにいったん？
ノザワ わからん、とりあえずロミジュリ全員女でやるって。
アキ え、元々そうやん。
ノザワ や、役自体を全員女にする、みたいな。ロミオとジュリエットを女同士の
カップルにする、的な。
アキ えー……。
まー ……ちよつと無神経だよね。
アキ あ。
まー や、一生懸命なのはわかるんだけど。
ノザワ あーね。あの、正義感お化けなのよ、昔から。
まー へー。
ノザワ それは全然、悪いとこじゃないんだけどね。
ノザワ、ベースの練習に戻る。
アキ うまくなった？

ノザワ んー笑

アキ もはや自主練なら家でもいんじゃないかね？

ノザワ やだよ重いもん。持つ？

アキ わ、重。

ノザワ なー、ママンもうるさいし。

アキ あーノザワママはなー。

ノザワ うん。

アキ なんか、(言葉を探して) エキセントリックだからなー。

ノザワ それ本場の発音で言って。

アキ え？

ノザワ 本場の発音で言ってよ。

アキ ……エキセントリック(発音がいいっぽいように。あくまでぼく。)

ノザワ (顔だけで反応。)

アキ なんだよ。

少しの間。

まー ほんとあんま集まって練習してないよね？大丈夫？

ノザワ だって、全員初心者なのにうちしか練習してないんだよ、やばくないそんな

な高心の集団？

まー え、ほんとになんもやってないんだ皆。

アキ ノザワの技で何とかなんないの？

ノザワ え、ベースだよ？

アキ うん、ん？

ノザワ ギターがあるじゃん、ドラムがあんじゃん、でこれがみんなと一緒にやる
とね、聞こえないの、ベースは。ベースが一番練習してもさ、どうせみんな
でやってたら聞こえなくなるの、だからもう、無理無理。何ともならない。
い。

アキ やばあ。

ノザワ まじ地獄のライブになるから来ないで。

アキ 逆に見たいけどな。

まー ね。曲は何やんの？

ノザワ あ、チラシあげる。

まー へー。かわいい感じだね。

ノザワ ほんと、顔にラメ付けるって。ハートの。

まー いいじゃん、文化祭っぽくて。

ノザワ ほんと、なんか全部そんな感じ。恋の歌しかない。

アキ あー。

ノザワ 一曲くらいもうちょっと、かっこいい感じの曲あってもいいと思う。

まー そうだね。

ノザワ ……大丈夫？

まー え？

ノザワ あ、や、ごめんなんか蒸し返して。

まー あーや、全然。

少しの間。

まー もしさあ。

ノザワ え。

まー もし、バルスって言って、で男を全員殺せたらさあ。

ノザワ うん。

まー そうしちゃうかもしれない。

アキ え。

まー さっき言ってくれたこともわかるんだけど、(アキヤマに)

アキ あ、うん。

まー でも、実はまだちょっと落ち着いてなくて、気持ちが。

ノザワ・アキ うん。

まー こういう気持ちにもうなりたくないって思ったら。

ノザワ うん。

まー 女の人はこういう気持ちにうちを、できないと思うのね。こんな気持ちにさせるのは、男だけだよな。

ノザワ うん。

まー じゃあ、いらなくな〜。

ノザワ ……。

まー なんかべつに、いてもいいけど。
ノザワ うん。
まー でも、うちの世界に、男はいらない、なく。
ノザワ うん。

間。

ノザワ じゃあもしさ。
アキ うん。
ノザワ あのキモい教授を殺すなら、どうしようか。
アキ え、
ノザワ うちら三人で、殺すなら。
アキ え、うちも？
ノザワ 例えばね？
アキ いやー。
ノザワ 逃げんなよ？
アキ こわい。
まー ……切り落として、ケツに詰める。
アキ 何を？
ノザワ いいね。
アキ え、え、
まー それで、全裸で校庭の木に吊るす。
ノザワ 金田一でそういうの見たことあるわ。
まー ほんと？
ノザワ うん勉強しとく。あと鍛えとくわ。そんて？
アキ まだ？
まー で、それをみんなでスケッチして、
ノザワ いい、徹底的に見世物にしてこ。
まー 会田誠の、
アキ だれ？
まー おじさんバージョンを、作って、豚って名前にする、その絵を。
ノザワ やろうそれ、うちに筋肉ついたらすぐやろうね。

まー うん、ふふ。

ノザワ やろやろ。

まー やろ。

ノザワ まーちゃんは悪くないからね。

まー うん。

ノザワ うん。

まー ……ほんとは、

ノザワ うん。

まー ニコニコしてたから、よくないんじゃないかと、思っ

アキ え。

まー あの時、ちゃんと嫌な顔して、断んなかったから、こうなったのかと、思
って。

アキ ちがうよ、え、全然ちがうでしょ。

ノザワ うん。

まー いったも、うまく言えないから、ほんとはすごく嫌でも、笑えちゃうか
ら、うん、あーごめん、ごめん。

ノザワ わかる。

アキ うん。

ノザワ 結構、皆そうだよ。

アキ ね。

ノザワ いいんだよ、そんなの。わかんない奴は一生わかんないんだから。

アキ うんうん。

ノザワ てかまあ、

ユミ、前の会話の間に、階段を下り、廊下を渡り、教室にやってくる。

アキ え？

ノザワ ソノは？

ユミ なんか、むずい。

ノザワ ん？

ユミ お話がむずかったので、逃げてきた。

てか、え、まーちゃんどうしたの。

なんもう、また泣かせて！

ノザワ すいません。

ユミ なに話してたの？

ノザワ キモ教授殺人計画。

ユミ えなにそれ面白そう。

ノザワ 言わない。

ユミ え、教えて、教えてよくアキヤマ。

アキ や、完全犯罪にしないとイケないから、これは。

ノザワ 三人だけの、(秘密のポーズ) あれだから。

ユミ えーやだやだ、教えて。

ノザワ やだ。

ユミ オーシーエーテ。

ノザワ ヤーダ。

ユミ え、ずるいずるい、職員室行かなきゃよかった。

アキ 何の話してたのよ、職員室は。

ユミ 言わなーい。

アキ そうこの良いから。

ユミ ひみつ。

アキ ええてもう。

ノザワ 演劇の話は？どうなったの？

ユミ ーなんか、やっぱレズはむずそう。

アキ ほらー。

ユミ だからソノがジャーやっぱそれは差別ですよね！って怒って。

アキ おうおう。

まー それはサキちゃんとしゃべってんの？

ユミ や、途中から学年主任とかいろいろ巻き込んでもう今職員室全体対ソノみ

たいな感じ。

アキ え、あんたその状態でソノ置いてきたの？

ユミ うんだってうちもなんか途中から、なんか、先生たちの方が正しいのか…

…？みたいになってきちゃったから。

アキ いやいやだとしてもさ、いくらソノでも泣いちゃうでしょ、それ。

ユミ や、でもめっちゃ戦ってたよ、ソノ。

アキ え、強いな、なんで？その正義感。

ユミ ーなんかうちのの中にもさ、そういう人たちはいるのに、いるのわかってんのに、先生たちがその態度なの意味わかんないんですけど？みたいな。

まー でも、ソノの案は確かに乱暴だから。

ユミ あ、やっぱり？

まー その案をほんとにそういう人たちが聞いたら、どう思うのかな、とか考えてんのかな、とは、思うかな。

ユミ すげえ、頭いいね、やっぱ。

まー いやいや、思っただけ。

ユミ でもさ、なんか、そんな割合でいるんかな？その人たち。

ノザワ え。

ユミ だって言ってくれなきゃわかんないじゃん？

ミスコンだっけ、別に最初にそういう人たちが困りますって言うてくれればうちら別にやらなかったよね。

まー ーまあ。

ユミ でもいなかったじゃん？

まー そう、ね、言ってくる人はね。

ユミ じゃあいないんじゃないかね、ってなる。

アキ まあでも、言えへんて。

ユミ え？でもノザワもなんとも思わなかったよね。

ノザワ え。

ユミ ノザワ、ユッキーと付き合ってるじゃん。

ノザワ あ、え？

アキ ちょ、え、なに？

まー その話、今関係ある？

ユミ えだって隠してないでしょ？

ユッキー言ってたけど。

アキ あんたそれさ、

ノザワ え、言ってたの？

アキ あ、

ユミ え、うん。あ、直接聞いたわけじゃないけど、A組へ、普通に。

ノザワ なにを？

ユミ え、普通に、デートどこ行く、みたいな話、とか、え、知らなかった？

ノザワ え、なんでそれ今まで、言わなかったの。

ユミ だって別に、え、言う雰囲気になったことないし、しないじゃんうちらコイバナとか。

ノザワ ……。

ユミ え、ごめん、ほんとに知らなかったの、ごめん。

ノザワ 他に、言っただけ？

ユミ え？

ノザワ その今言った事の他になんか。

ユミ や、ほんとちらっと聞いただけで、ごめん、普通に話してたから、そうなんだくっと思っただけで。

ノザワ ……。

アキ あんたちちょっと、ちょっときな。

ユミ え、え？

アキ いいから。

アキヤマ、ユミを廊下に連れていく。

★C(★C'45P) ユミ 痛い、痛いから、なに。

アキ あんたあれはないよ。

ユミ え？だって、知らなかったんだもん。

アキ だってノザワから言ったことないじゃんその話。

ユミ でも彼女が言ってんじゃない。

アキ だからそれをノザワもおんなじ気持ちとは限らないでしょ。

ユミ そんなの知らないよ、知らなかったんだって。

アキ てかあんな怒んなくてもいいじゃん。

アキ は？

ユミ だって別にうちノザワがレズでも気にしないし、それでなんか言ったりもしてないじゃん。

アキ そうじゃなくて、

ユミ そういう人なんだなって思ってるだけじゃん、キモいとか言ってるわけじ

やないじゃん。友達だもん。

アキ だからそれは、

ユミ 女の子と付き合ってるって言っただけでだめなの？それで変な空気になるって、そっちの方が差別じゃん。

アキ ちがうから、今お前の気持ちの話してないんだよ。

ユミ だって。

アキ ユミがどういう気持ちだって関係ないから、(ノザワが) 傷ついてたから、それが無神経だって言ってるの。

ユミ ……。(無視して階段を上り始める。)

アキ ねえ！

逃げんな！待ってよ！

ユミ、アキヤマ、階段を駆け上がっていく。

★(つ、まー 大丈夫……？)

ノザワ あ、うん。ごめんちょっとびっくりしちゃって、あの、いきなりだったから。

まー そうだよね。

ノザワ あ、大丈夫、悪気ないのは全然、分かるから。

まー いやでも、だからって許さなくていいよ。

ノザワ うん。

まー ……あのさ。

ノザワ うん。

まー 衣装合わせの時に、泣いちゃったじゃん。

ノザワ あ、うん。

まー あれって、ごめん、なんかあったのかなって、思ってる。

ノザワ あー……。

まー あ、無理はせずであの、大丈夫。

ノザワ ……さっきの男全員消すバルスあったじゃん？

まー あ、うん。

ノザワ そしたら自分は、消えるのか？消えないのか？と思って、

まー え？

ノザワ その、自分はどっちなんだろって、たまに思うんだよね、最近。

まー あ、え、

ノザワ あ、ごめんね、こんななんか意味わかんないタイミングの重い話。

まー や、うちが聞いているから、全然、続けて。

ノザワ あ、ありがと。

まー いえいえ。

ノザワ だから多分、ユミとかはさ、あたしの事レズだと思ってるんだけど、でも、うーん。あたしは、自分の事あんまり女だと思っていないというか、特にその、露出狂の話とか、キモ教授の話とか聞くと、やめてーこの体となる。胸とかケツとか、もう一個空いてる穴とか、全部無理だーってなる。

まー うん。

ノザワ そしたら、なんかご飯が食べれなくなった。

まー ……うん。

ノザワ じゃあ男になりたいんかって言ったら、やっぱり違う。

どっちにもなりたくない。どっちの性別にも分けないでほしい、あたしをそれで、判断しないでほしい。

まー うん、うん。

ノザワ でもそれって、結構むずくて、女子高でも、なんか男役みたいになるし、そうふるまった方が楽だからそうするけど、それもやっぱり、しんどい。

まー うん。

ノザワ 塾もあたしのことちゃん付けて呼ぶ先生とか、皆でバレンタインのチョコあげようとか言う、先生に、企画があったりして、この前も、あたしが勉強できないのはべつにあたしのせいなのに、女の子はそのくらいでいいのよ、あんまりいい大学行ってもねえ、とかいってくる親戚とかいて、そうするともう、そこに、あたしはいない、みたいな気がする。

まー うん。

ノザワ 全部一個一個はめっちゃ小さい、どうでもいい話だし、どうでもいいって思っただけで、やっぱり、しんどいなあ。

まー ……ごめんね。

ノザワ なんで？謝らないで、聞いてくれてありがとう。

まー ううん、なんか、なんもできなくて、ごめん。

ノザワ いいよ、これはなんか、自分の？問題だから。

まー え、ちがうよ。

ノザワ え？

まー それは、ちがうよ。

ノザワ そうかな？

まー ノザワは悪くないよ。

ノザワ ……。

まー ノザワが苦しいのは、ノザワの問題じゃない。絶対。

ノザワ ……。

まー 説得力ないか、ごめん。

ノザワ ありがとう。

まー いや、うん。偉そうに、ごめん。

ノザワ そんなことないから。

顔、洗ってくる。

まー あ、一緒にいくよ、うちも。

ノザワ うん。

ノザワ、まー、廊下に出ていく。

ソノ、サキ、階段を降りてくる。

ソノ あ、いいですよ全然ついてきてもらわなくて。

サキ え、でも。

ソノ いいですもう、

サキ だけど、

ソノ 今じゃないんで、

サキ え。

ソノ 助けてほしかったの、今じゃないんで。

サキ ……ごめんなさい。

ソノ え、分かってんならなんで一回も味方してくんないんですか？

サキ ごめんね、

ソノ や、ごめんじゃなくて、え、先生って、なんなんですか？

サキ え？

ソノ 何がしたいんですか？もういいですよ今ここにカナ先いないんで、先生的には、ほんとはどういう気持ちなんですか？

サキ もちろんソノさんの気持ちを大切にしたいって思ってるよ。

ソノ で？

サキ それで、その、ミスコンも頑張ってたし、みんなの努力が実ったらいいって思ってるし、

ソノ だからそうやって言葉探さなくていいから、言ってくださいよ。めんどくさいんでしょ？

サキ そんなこと、

ソノ めんどくさいんですよね、そもそも。カナ先に反対するのも、うちらを叱ってやめさせるのも、嫌われたくないんですよね、誰からも。

サキ そんな、そういう風に見えてたらほんとに情けないけど、

ソノ 見えてるとかじゃなくて、そうなんですよね？嘘つかないでください、うちらにちよっとでも申し訳ないと思うんだったら、ほんとのこと言ってください。

サキ ……。

ソノ ……。

サキ ソノさんが、この件にこだわるのは、どうして？

ソノ は？

サキ 高いのこの時期じゃない？あんまりこういうことにエネルギー使わない方が、良いと思うんですけど。

ソノ 今そんな話してないんですけど。

サキ それって、ノザワさんのことが関係あるのかな。

ソノ は？

サキ 修学旅行の時の、わたしの対応が、よくなかったからなのかな。

ソノ 別に、てか今その話（いいんで、

サキ でも、元気そうじゃない？

ソノ え、いやいや明らかに去年より痩せてますよね？

サキ あーそれはそうだけど、

ソノ あの時、先生がちゃんと、

サキ どうしたらよかったのかな、通報するわけにもいかないじゃない、

ソノ したらいいんですよ、男が勝手に女の布団に入ってキスしてたら犯罪でしょ

よ？

サキ それはそうだけど、

ソノ だからそれをあいつはやったんですよ、ノザワに。

サキ でも、今付き合ってるんでしょ。

ソノ そうだけど、でも、

サキ じゃあ結局、仲いい女の子同士のスキンシップじゃないのかなあ。修学旅行だし、テンションが上がってたりさ、

ソノ 違う。

サキ どうしてソノさんにわかるの？だってノザワさんは言いたくないって言うてたんでしょ？

ソノ だってそのままにできないじゃないですか、あんなことしたやつ許せないでしょ。レズだと思ったから、冗談じゃん、て言ったんですよ。ありえないから、

サキ ソノさんのそれ、ほんとにノザワさんはうれしかったのかな。

ソノ は？

サキ だって、そのこと、ノザワさんに言った？

ソノ え？

サキ わたしに言った事。

ソノ ……。

サキ それが言えないって言うのは、やっぱり、ソノさんもちよつとはよくなかったって思ってるからじゃないのかな。

ソノ そんなことっていうか、そんな話してないんですけど

サキ 本当はそのことの方がずっと気になってるんじゃない？わたしの気持ちなんかより。

ソノ そんなことないです、もういいですこの話、戻ってください。

まーちゃん、教室のドアを開けたところで振り返り、ノザワの異変に気付く。

まー ノザワ？

ソノ 、まって、ごめん。

まー え、大丈夫？

まーちゃん、ソノ、ノザワを追いかけて、去る。

サキ ……。

アキヤマ、ユミ、階段を降りてくる。

アキ あ、先生。

ユミ あ……。

サキ え、ナカイさんどうしたの？

ユミ あ、や、ちょっと。

サキ え？

アキ あの、ちょっと言い合いみたいになって、でもあの、大丈夫です。

ユミ はい。

サキ そうなんだ、よかった。ナカイさん。

ユミ え。

サキ マスカラ取れてる。

ユミ あ、あー…あはは。

サキ メイクは禁止だからね、一応。

ユミ はい、すみません、夏休み前で、浮かれて。

アキ すぐ浮かれるんですこいつ、すみません。

サキ ……羨ましいなあ。

アキ え。

サキ や、時々、戻りたくなるよ、女子高。

アキ あー……。

ユミ でも、先生いつもオシヤレで、大人って感じていいですけどね。

サキ うん、ありがとう。

ユミ あの、なんか、さっき職員室で見てて、先生大変だなってわかったんで。

サキ え。

ユミ だから、ソノとかは結構怒ってると思うんですけど、うちは、先生が悪いとか、全然思っていないんで、しょうがなかったなって思うんで。先生女の人だし、若いし、大変なのわかるんで。

サキ そう。
ユミ はい。
サキ ありがとう。
ユミ いえいえ。
サキ じゃあ、早く帰りなね、高いなんだし。
ユミ はい。
アキ すいません。

サキ、階段を上がって去る。

アキ (サキを見送ってから。) え、
ユミ あ、好感度好感度。
アキ あー。
ユミ こんなんで印象悪くしたくないし。
アキ あんたってアホだね。
この間に、まーちゃんが教室に帰ってくる。
ユミ は？
アキ 悪い意味で。
ユミ いい意味じゃないんか？
アキ や、あんたは、あんたのアホさをもっと痛感すべき。
ユミ 厳しい。

アキ、ユミ、廊下を横切り、教室に帰ってくる。

アキ ただいまー。
まー おかえり。
アキ ソノまだ帰ってきてないの？
まー うん、ノザワはトイレ。
アキ え、また？
まー うん。
アキ なんだよ。いつマック行けんだようちら。
まー ……先 رفتてもいいと思う。

アキ え、ほんと？

まー うん、ソノ、もう少しかかりそうだし、ノザワも、うん。だから、先行こ
う。

アキ おっけー。

ユミ うん。

アキ メイク、直してきたら？

ユミ あ、うん。

アキ 教室でやるとまたバレるでしょ。

ユミ うん。

まー あ、

ユミ ん？

まー 二階のトイレの方が、良いと思う。

ユミ え？なんで？

まー あそこ、全部の個室流されてない。

ユミ は？

まー さっき行ったけど、うん。

ユミ えーお前、

アキ え、ちがう、

ユミ 流さねえし手も洗わねえしお前、

アキ ちがうって、うちじゃないって。

ユミ もういい、めんどろ。

アキ ねえうちじゃないから！

ユミ あーほんとめんどろ。

ユミ、廊下を渡り、階段を上って去る。

アキ うちじゃないよ？

まー わかってる。

アキ ほんとだよ？

まー わかってるよ……ごめん。

アキ え？

まー や、うん。

アキ てか、すっぴんで全然かわいいのにね、ユミ。
まー うん。
アキ 努力すごいし。
まー そうだね。
アキ ……。
まー ユミがさ、
アキ うん。
まー ユミってたまに、なんか、えいまのあんたが考えたの？みたいな、憑依する
アキ ことあんじゃん？
まー そうだね笑
アキ でこの前さ、うちが痴漢にあっつさ、はやくババアになってこういうの終
まー わらせたい、みたいなこと言ったらさ、
アキ え、うん。
まー それめっちゃ失礼だし、その歳重ねた人に、ていうかうちらはもう生まれ
アキ 落ちた時から永遠のランウェイだからって。
まー え？
まー うちら死ぬまで、墓場まで、っていうか、死んで尚、ずっとランウェイ歩
アキ いてんだって、だからもうそれはそれぞれのやり方で歩いていくしかない
アキ って。
アキ へー……。
アキ 顔のいい人間のポジティブさすごい。
まー うーん、でもいろいろ言われるって言ってたよ。
アキ 誰に？
まー なんかお姉ちゃんからとか、「あんたは顔がいいから鼻屑されてる」っ
アキ て。
アキ え、すご。
まー でもさ、それはどうにもできないことだし、ユミには。
アキ そうね。
まー だから、顔で態度変える奴の方がよっぽど糞じゃねって、
アキ かつこいゝゝゝ。
まー えーだってそうじゃない？それはユミのせいじゃないじゃん。
アキ うん、うん。でもー……。

まー
ん？
わかってても、ずるいなーって思う気持ち、あんだよね。
まー……。
アキ わかってんだけどね。ユミは普通にしてるだけだから。
まー ……内輪作っていいこうか？
アキ え？
まー 文化祭のダンス。
アキ えーいいよ笑
まー 自分、KAT-TUNのファンやってたから、得意よ。
アキ えー。
まー ウィンクして〜とか。
アキ できるかな〜。

ユミ、前の会話の間に、階段を下り、廊下を渡り、教室にやってくる。

まー アキヤマうまいからでございしょ。
アキ あざーっす。
まー 頑張つてね。応援する。
アキ うん、ありがと、
アキ あれ、早いね？手洗った？
ユミ うるさい、や、職員室目の前だから、
まー あそっか。
ユミ そうそう、落とすだけ落とした。
アキ あそー。
ユミ 駅で直す。はー無理。
アキ なに？
ユミ 今日だけは盗撮しないでほしい。
アキ は？
ユミ え？
アキ お前ってほんとすごいな。
ユミ なに？え、なに？（まーちゃんに。）
まー いい、行く。

ユミ え〜。
アキ 何食べよっかな。
ユミ シャカシャカポテト。
アキ なんかもあれ期間限定じゃない？
ユミ え、嘘。
アキ あ、シャカシャカチキンの粉かければ？一緒でしょ。
ユミ そしたらチキンが素チキンになるじゃん。
アキ えー二個もらえたりしないのかな。
ユミ やだー貧乏くさいじゃんなんかそれ。
アキ 失礼だなこいつ。
ユミ えー？
アキ そういうとこだよ、ほんとに。
まー ほんとほんと。
ユミ えー。
アキ あ、クレアーズよっていい？
ユミ あ、いこ。
まー いいよ。
アキ お揃いのアクセサがしたい。
ユミ ダンスの。
まー あー。

ユミ、まー、アキヤマ、以上のセリフの間にドアを開け、帰っていく。
しばらくして照明変化。
ソノ、教室に帰り、ノザワの荷物を少し眺めたあと、去る。
さらにその後、サキ、階段を下りてくる。
不自然に赤い夕闇に照明変化。
ノザワ、ブラウスの前を閉めながら教室に帰り、ベースを片付け始める。
サキ、教室のドアを開ける。

サキ あ。
ノザワ ……。
サキ ごめんね、もう鍵閉めちゃうけど。

ノザワ あ、はい。

サキ ……大丈夫だった？

ノザワ え？

サキ さっき。

ノザワ ああ、はい。

サキ ごめんね、ソノさんも、ノザワさんのことを思ってたんだと思うから。

ノザワ あー。

サキ そう、それでそう、ちょっと話しておきたいことがあって。

ノザワ なんですか？

サキ 私もこの卒業生なんだけど。超先輩だけだね。

ノザワ ああ

サキ 部活の1年上にすごいかっこいい、ユウキさんみたいな先輩がいて、遊びに行ったりもしたんだけど、で、キスとかもしたんだけど。

ノザワ え。

サキ でもね、結局先輩は卒業したら普通に男の人と付き合ってたし、私も高校出たから女の人と付き合ったことないのね。考えもしなくなった。

ノザワ そうなんですネ。

サキ そういう子多いよ、高校時代は同性カップルだった子が、大学に入って「女子高マジック」が解けるの。結局恋人は男性みたいな、普通に付き合うの。

ノザワ ……。

アンプから、小さくノイズが鳴り始める。

♪ROMANCE／非常階段

サキ だから、別にノザワさんが迷うのも全然いいことだと思うけど、それももしかしたら全然今だけのことかもしれないよって、あんまり不安に思う必要ない（かもよって、言いたくて。

ノザワ すいません……気づいてましたよね？

サキ え？

ノザワ 先生、わたしがあそこにいたの、気づいて、あの話、しましたよね。

サキ え、そんなこと、

ノザワ 目、あいましたよね？

サキ どうだったかな。

ノザワ すいません、ちょっと今、

サキ え。

ノザワ ちょっと今なんか言われると先生の事殺しちゃいそうなんで。今結構重いもの持ってるんであたい。うっかりすると殺せちゃうんで。

サキ ……。

ノザワ だから、ちょっと静かにしてもらっていいですか。

サキ、黙って出ていきドアの外で待つ。

ノザワ、窓の外を見つめた後、ジャージを脱ぎ捨て、完全に“女子高生”の姿になり、教室を去る。

教室に鍵がかけられるのと同時に、垂れ下がっていたすべてのシールドケー

ブルが、天井から地面に落ちる。

ノイズが最大になると同時に溶暗。

バイオリン単体演奏での ♪大フーガ／ベートーベン が流れ、カーテンコール。

完

参考文献

- 1 スティーブンオーゲル(著)、岩崎宗治(翻訳)、橋本恵(翻訳)(1999)/『性を装うーシエイクスピア・異性装・ジェンダー』(名古屋大学出版会)
- 2 佐伯順子(2009)/『女装と男装』の文化史』(講談社選書メチエ)
- 3 長島淳子(2017)/『江戸の異性装者(クロスドレッサー)たち-セクシユアルマイノリティの理解のために』(勉誠出版)
- 4 グレイソン・ペリー(著)、小磯洋光(翻訳)、(2019)/『男らしさの終焉』(フィルムアート社)
- 5 森山至貴(2019)/『LGBTを読みとくークィア・スタディーズ入門』(ちくま新書)

- 6 渡辺大輔(2018)/『性の多様性ってなんだろう?』(平凡社)
- 7 石田仁(2019)/『はじめて学ぶLGBT基礎からトレンドまで』(ナツメ社)
- 8 ジェローム・ポーレン(著)、北丸雄二(翻訳)(2019)/『LGBTヒストリーブック 絶対に諦めなかった人々の100年の闘い』(PRIDE叢書)
- 9 北丸雄二(2021)/『愛と差別と友情とLGBTQ+:言葉で闘うアメリカの記録と内在する私たちの正体』(人人舎)
- 10 山口裕之(2022)/『みんな違ってみんないい』のか?——相対主義と普遍主義の問題』(ちくまプリマー新書)
- 11 清水晶子(2022)/『フェミニズムってなんですか?』(文春新書 1361)
- 12 ヘル・フックス(著)、堀田碧(翻訳)(2020)/『フェミニズムはみんなのもの情熱の政治学』(etc.books)
- 13 林香里(著、編集)、小島慶子(著)、山本恵子(著)、白河桃子(著)、治部れんげ(著)、浜田敬子(著)、竹下郁子(著)、李美淑(著)、田中東子(著)(2019)/『足をどかしてくれませんか。——メディアは女たちの声を届けているか』(亜紀書房)
- 14 シンジア・アルツァ(著)、ティティ・バタチャーリヤ(著)、ナンシー・フレイザー(著)、菊地夏野(その他)、恵愛由(翻訳)(2020)/『99%のためのフェミニズム宣言』(人文書院)
- 15 ロクサーヌ・ゲイ(著)、野中モモ(翻訳)(2017)/『バッド・フェミニスト』(亜紀書房)
- 16 エリス・ヤング(著)、上田勢子(翻訳)(2022)/『ノンバイナリーがわかる本——heもsheもna』theyたちのこと』(明石書店)
- 17 Kenio(2019)/『サチタ棺桶まで永遠のシンサント』(KADOKAWA)
- 18 Kenio(2022)/『サチタメンタル衛生きちんを守ってかないと普通に十還りせん』(KADOKAWA)